

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600228		
法人名	医療法人 井上内科病院		
事業所名	グループホーム萩の家		
所在地	三重県津市久居井戸山町751番地1		
自己評価作成日	平成 26年 11月 8日	評価結果市町提出日	平成27年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600228-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26年 12月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の医師が主治医であり、毎週1回の診察で健康管理がされています。日常生活はリハビリテーションを含んだレクリエーションにより、皆さん生き生きと楽しんでいます。またボランティアの方々に、月2～3回訪問してもらい、歌、踊りの行事に参加できる事を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今や地域の方々の医療、保健、福祉、介護サービスに欠かせない母体の医療法人『井上内科病院』が運営する老人保健施設、メンタルクリニック、母体法人のグループである社会福祉法人が運営する特別養護老人ホーム、老人保健施設、在宅支援センター、訪問看護ステーションが近くにあり、それらの施設、事業所との連携、交流が日常的に行われ、又、利用者とその家族に全幅の信頼がある管理者・スタッフの下、『思いやりの気持ちで楽しい生活を心がけよう』の理念を全てのスタッフが共有し、日々の生活に於いては、常に利用者個々の尊厳を念頭に置き、利用者の心身の機能の維持、回復を図るため、朝の掃除や食事の準備、片付等出来ることはさり気なく見守りしながら参加してもらえようように心掛け、いつも自然体の笑顔とやさしい声掛けで利用者のペースに合わせた支援がされている。特に近隣に母体の病院があり週1回往診による医療面、スタッフの思いやりの介護で、全ての利用者は元気で、明るく、表情も豊かであり安心して生活している様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、他人のことを「思いやる」ことに重点をおいて理念としている。	『思いやりの気持ちで 楽しい生活を心掛けよう』の理念の基、地域の為に何かお役に立ちたいの思いから、事業所を非常災害時の一時避難所に提供する等、常に地域との共存を考えている。生活面では家庭的な雰囲気のほか、利用者個々の尊厳を念頭に置き、笑顔とやさしい声掛けで利用者のペースに合わせた支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中「野菜がとれた」と地域の方々が、いつでも立ち寄って頂けるグループホームとなっている。	地域の方に愛され、地域の方が気楽に立ち寄って頂けるような、地域資源の一つになれることを目指している。近隣の東中学校とは年間を通して職場体験や地域の方を交えての餃子づくり、中学校の運動会に見学に出掛ける等交流を深めている。	さらに地域に根付いた地域資源の一つになるために、事業所の得意性を活かし、地域に向いて地域の方に正しい認知症の理解や家庭での高齢者介護のあり方等の話し合いの機会を持たれることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の生徒、地域の方々、ご家族の方々に対し、交流の一環としてギョーザ作りを開催し、交流の場として努めました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の方々、ご家族の方々のご協力を得て、サービスの向上に繋がるようにアドバイスを頂き、運営に生かしている。	市、民生委員、利用者家族等のメンバーで年6回開催されている。参加者は介護、福祉に関心が高く、多くの助言、意見、提案が出されており有意義な会議となっている。今後は地域代表(自治会長等)参加の会議を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の問題等を一緒に考え、改善に向けて協力して頂いている。	事務的な相談事や保険の変更、介護更新等は、管理者でその都都市の介護保険課に出向いて処理している。運営に関することは、事務長も参加する運営推進会議で事業所の実情報告、相談、情報交換が行われていて連携は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはならない事を、よく理解している。	『身体拘束委員会』で、ヒヤリハット等の事例を取り入れた研修会が行われていて、スタッフは身体拘束における弊害はよく理解されている。スタッフは常に注意深く利用者の見守りを心掛けていることから、玄関は施錠していないし、身体拘束のない自由で楽しい生活が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待をしてはいけない事を、よく理解している。施設内では虐待は見受けられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用する方は入居されていませんが、成年後見制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは会話を持つ事で、意見、不備、苦情等を早急に把握し、解決できる様に心掛けている。	利用者とは日々の会話で、家族とは、多くの方が月に数回面会がありその機会と、年2回の家族会（1回は利用者と一緒に外食に出掛ける）の機会に、又、運営推進会議で意見、要望等を聞き介護の質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、運営に反映している。	管理者、スタッフとも長年人事異動がなく、管理者もスタッフの一員としてケアの場にいることで、気づきやアイデア、日々感じている事は何時でも何でも言える環境にある。スタッフからは地震等非常災害時の車椅子の固定や下駄箱の転倒防止等のアイデアが出され順次整備され活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各行事内容を把握して、必要である資金、人材等を支援してもらっており、管理者や職員が働きやすい職場環境に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲的に研修に参加し、職員の育成に努めている。今年は職員の退職も無く、新人研修のオリエンテーションは作成されているも、活用する事がなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流により、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームの見学面談の機会に、事前に不安な事、求めている事等を聞き取り、本人自身が十分楽しめる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、当ホームの見学時や面談時に困っている事、不安な事、求めている事等を十分に聞ける機会をつくり、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、本人がより良い生活が送れる様に協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、より良い関係が作られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅サービスである事を念頭におき、ご家族、お友達、ご親戚の方々が自由に出入りして頂ける様に支援している。	利用者が高齢になり知人や友人の面会は多く望めないが、面会に来てくれた知人、友人に継続して面会をお願いする手紙を出す支援をしている。又、事業所に近い利用者が多く、家族や親戚が頻りに面会に来てくれるので、家族の協力を得て自宅や墓参り等馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	6人という少人数であり、家族同士の様な関わりを感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の訪問があったり、連絡をしたりされたりして、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、一人ひとりの思いやりや希望等を把握して、より良い生活が送れる様に努力している。	お一人を除いて自ら思いや意向は会話の中で把握できるので、利用者に関わる時間を大切にし、スタッフと一対一となる居室や入浴時にゆっくり話を聴きながら、又、その日の体調や表情、しぐさ等から思いや意向を把握している。把握した事は日誌(申し送り帳)に記入し全スタッフが共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を知る上で大切な資料と考え、ご家族の方々にも協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを知る上で、その人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、本人、ご家族、必要な関係者と話し合いを持ち、介護計画を作成している。	3ヶ月毎にケアチェック表(食事・水分・排泄・入浴、清拭・洗面、口腔清潔、更衣・基本動作、リハビリ・医療、健康・心理、社会等)で詳細モニタリングし、全スタッフで日々のケアを確認しながら、家族の意見を踏まえて、定期的には3ヶ月毎に、体調に変化があればその都度計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受け持ち制により、気付いた点をチェックして、全員でモニタリングを行っている。また必要に応じて、新しい介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望の応じて対応している。かかりつけ医院への受診、買い物等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、文化、教育機関等の協力を得て、支援に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人井上内科医院であり、安心で適切な医療が受けられる。	家族の希望で、全ての利用者は母体である協力医がかかりつけ医となっている。週1度の往診と緊急時等24時間対応が可能であり、利用者は勿論家族も安心で適切な医療が受けられる体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、健康管理と医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。入院時、医師や管理者より十分に説明して、安心して医療を受けられる様に支援している。また医療機関との連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期のあり方について話し合いを持ち、要望に応じた対応をしている。	重度化、終末期の支援については、運営規定に（重度化対応・終末期ケア対応指針、目的）（重度化した状態・終末期の判断等）が明記され、利用時に家族に説明している。利用者が重度化や終末期の状態になった時には、医師の判断により、本人・家族が望む終末期の支援をする方針であり、スタッフも同じ想いである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時にスムーズな対応ができる様に、話し合いを重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は地震災害をグループホーム全体で想定して、職員全員で避難訓練をしました。また母体である井上内科病院と老健菰の原の火災訓練にも意欲的に参加し、消火訓練、放水訓練等も実施しました。	非常災害時に備え、ヘルメットと3日分の食糧等が用意されている。利用者参加の地震を想定した本番さながらの避難訓練、火災で夜間を想定した訓練、又、母体法人グループの火災訓練にも参加し、グループ内の協力体制も出来ており、防災に対する意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女共同生活の場である為、排泄や入浴に関するケアには十分な配慮を心掛けている。	人格の尊重とプライバシーの確保については支援に欠かせない一番大切な事と意識し、利用者本位を念頭に、笑顔で優しい声掛け、言葉遣いに心掛けている。男女が共に生活する場であるから、特に入浴時、排泄時の言動に気を付けながら接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の力にあわせた自己決定に寄り添って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大切にして、個別ケアの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の着替え等希望に添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の気持ちを把握し、希望も取り入れながら献立を決めている。後片付けは職員と共に行っている。	献立は、利用者に今日は何が食べたい？と問いかけ、冷蔵庫の食材を見ながら利用者とスタッフが一緒に考えて決めている。プロ級の腕のたつスタッフが調理し、スタッフも一緒に楽しい食事となっている。又、時々好みのお寿司やうなぎの夕食、花見弁当持参の花見も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量を把握し、能力に応じて食事摂取介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜通してタイミングを見計らって、トイレ誘導している。	事業所は、排泄が自立で行える支援を目指しており、全利用者は布パンツで一部の方は誘導、介助が必要だが、大半の方は見守りのみでトイレでの自立排泄となっている。夜間もリハビリパンツ、パッドを利用される方もあるが、大半の方はトイレでの自立排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしたり、水分補給を十分取る様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回となっているも、ひとり一人の入浴の希望、タイミングに合わせて対応している。	希望があれば毎日の入浴も可能であるが、現状は利用者の体調や希望で概ね週3回の入浴となっている。入浴は利用者好みの湯加減に合わせている。季節に合わせて柚子湯、菖蒲湯、入浴剤で楽しんでいる。又、入浴のない日は朝夕に熱いおしぼりで清拭している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点をおき、生活リズムを整え、ゆっくり休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬処方に用法が記入されており、職員は理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、様々なレクリエーション活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の活動に参加や散歩等、戸外に出る支援をしている。	天候と利用者の体調を見ながら、事業所周辺の散歩や玄関先で外気を体感している。食材の買い出し、グループの老健のイベントに参加、近くの東中学校の運動会を見学、5月には家族の協力を得、外食を兼ね三重総合博物館(話題の『ミエソウ』)で感動、又、利用者と家族の希望でお正月には実家で家族と過ごす機会を設ける等多くの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金の管理を任せているが、基本的にはご家族の考えを優先している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使って頂いたり、葉書・切手の用意、手紙の投函支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面した居室には太陽が十分入り、居心地の良い共用空間となっている。	全ての共用空間は掃除が行届き、整理整頓されていて清潔感がある。大きなガラス張りの窓から心地良い採光の入る居間兼食堂には随所に利用者の作品が飾られ季節感が感じられる。対面式のオープンキッチンは見守りしながら利用者と一緒に食事の準備ができ、調理の音と匂に触れ、食事はより楽しいものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や長椅子を置いて、利用者同士でゆっくりと会話できる空間を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具等を置き、本人が居心地良く暮らせる様に工夫している。	各居室とも掃除が行届き、整理整頓され、居室の玄関には手作りのクリスマスの作品が飾られ季節が感じられる。居室には何でも持ち込みが可能であり、お気に入りの家電や小物、家族の写真、趣味で作った伊勢型紙等が持ち込まれ、お好みの飾り付けがされていて居心地の良い部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の持っている力を十分に発揮し、自立した生活が営める様に工夫している。		